

# 日本生命館 設備概要

## 十六、衛生設備

### 一、消火設備

各階三ヶ所に配置せる消火栓總數33個各「ホース」100尺、地階消火「ポンプ」並に屋上井水槽に連結す、消火「ポンプ」は自動的に運轉す、尙一階正面兩側に「サイヤミーズコネクション」二個を設置す。

### 二、上水給水設備

市水道の供給を受け「タービンポンプ」に依り屋上水槽に揚水し、各階洗面器、厨房、湯沸場、其の他に給水す、水槽には「フロートスイッチ」を設け自動的に「タービンポンプ」を運轉す。

### 三、井水給水設備

鑿井より「ボアホールポンプ」を以つて砂沈澱水槽を経て貯水槽に導き「タービンポンプ」を以つて「プレッシャーフィルター」を経て屋上井上槽に揚水し、各階大便器、小便器「スコップシンク」撒水栓、靴洗等の雜用に給す。

### 四、給湯設備

機械室に「タンクヒーター」を設け、上水を攝氏80度に加熱し、鎮鑰管を以つて各階洗面器、湯沸場、諸器具「シンク」厨房、給浴槽等に供し、何れも末端より返湯管を取出し、循環「ポンプ」を経て「タンクヒーター」に返湯す。

### 五、冷却飲料給水設備

冷却槽に於て攝氏13度以下に冷却せる飲料水を各階「ドリンキングファウンテン」に給水し、循環装置に依り還水せしむ。

### 六、排水、排氣設備

第一階以上各階排水は直接市下水道に放流し、一階以下排水は排水「ピット」に導き、排水「ポンプ」を以つて、又雨水は「ルーフトレーン」を経て屋外下水に放流す。

(前號寫眞及記事參照)

七、衛生器具

陶器類は總て東洋陶器株式會社製一等品とす。

大便器<sup>98</sup> 小便器<sup>67</sup>、洗面器及手洗器<sup>140</sup>、「スロップシンク」<sup>19</sup>、「ロールリムシンク」<sup>20</sup>、「ドリンキングファウンテン」<sup>16</sup>、瓦斯湯沸器<sup>20</sup>を配置す。

八、真空除塵設備

機械室に設くる真空除塵機より四ヶ所に立上り各階に「インレットバルブ」計<sup>43</sup>個を配置す。

十七、煖房及換氣設備

一、直接煖房裝置

本裝置は真空式蒸汽煖房裝置とす、米國「ラヂエーター」會社製「レッド、フラツシュ、ボイラー、オイルバーニング」型（容量<sup>888</sup>平方米）三基を据付け、各階事務室、便所、手洗所、三階以上各賣場の一部に配置せる放熱器に配給す。

二、高壓蒸汽罐設備

池田式汽罐、水管式<sup>1200</sup>番型（容量蒸發量毎時<sup>545</sup>疋）二基を据付け、常用汽壓<sup>4</sup>疋の蒸汽を減壓裝置を経て給湯用「ストレージタンク」に送り、地階及第七階厨房内に給湯す。

三、間接煖房及換氣裝置

機械室、電氣室及更衣室、店員食堂に對しては溫風送風裝置並に配氣裝置を施す。

地階及七階厨房、各便所、手洗所、浴室、蓄電池室に對しては排風機に依り換氣裝置を施す。

四、重油貯藏室に徑<sup>1800</sup>耗、長<sup>3300</sup>耗、量<sup>9000</sup>立の貯藏槽二臺を設置す。

十八、溫濕度調整裝置

一、本裝置施工範圍は地階賣場、地階一般食堂、第一、二階賣場第三、四、五階特別室、第七階一般食堂、第三、四、五、六、八階賣場及七階食堂前廣間、

第八階寫眞室、美粧室及ホールとす、八階ホールに對しては調整裝置を屋上階「ファンルーム」に、寫眞室、美粧室に對しては調整裝置を第六階に設置し、其他の調整裝置は地階機械室内に設置するものとす。

各室に對しては夫々系統を七つに區分し、自動調整器を附し、風導管に依り溫度、濕度を調整せる空氣を送風するものとす。

二、空氣取入口は一階北側空壕に設置す。

三、冷凍裝置、夏季に於ける右調整裝置に附隨して冷凍裝置を設備す。

十九、昇降機設備

一、「エレベーター」

本建物内「エレベーター」の配置は、賣場に八臺を設備し其の内六臺は正面玄關を入つて「ホール」正面に集中し、第二地階より屋上階に至る、他の二臺は反對側西北隅階段側に設け、第一地階より第八階に至る、後館事務室側には店員用二臺、荷物用二臺を設置し、前者は第二地階より屋上まで、後者は第二地階より第七階までとす、別に日本生命事務所専用として二臺を設置し第二地階より第八階に至る。

客用八臺、「オーチス」製「ユニット、マルチボルテージ、メーンモーター、マイクロ、ギアレス、フライングストップ、コントロール」

積載能力 3500封度

速度 毎分400呎

店員用二臺、「オーチス」製「ギヤード、トラクシヨン型、カースキツチ、コントロール」

積載能力 2000封度

速度 毎分250呎

二、「エスカレーター」

本建物に設置せる「エスカレーター」は賣場内南寄中央に之を設置し、第一

地階より起りて第五階に至る各階間一臺宛計五臺とす、「オーチス」製「クリートステップ型レバーシブル、エスカレーター」

積載能力 一時間 4000

運轉速度 毎分 90呎

尙第三階以上各階面に「シャッター」式防火装置を設く。

## 二十、コンベヤー設備

### 一、「バーチカルコンベヤー」二臺

本建物に設備せる「コンベヤー」は賣場に於ける品物の運搬に用ふるを主とし、各階賣場を垂直に連絡する「バーチカルコンベヤー」を南側及東北寄りの二ヶ所に設く、前者は第二地階より第五階に至る各階、後者は第二地階より第八階に至る各階に入口を有す。

入口には防火扉を設く、第一地階にて荷卸口を背面に設け荷卸「シュート」及「ベルトコンベヤー」を接続し、御買上品渡場に至る。

### 二、「インクライン、コンベヤー」一臺

第一地階御買上品渡場より第一階發送室に至る包装商品運搬用。

### 三、「エプロンコンベヤー」二臺

第七階厨房に於ける食器搬送用。

## 二一、メールシュート設備

本建物据付の「メールシュート」は米國「カッター、メールシュート」F型とし客用、事務所用、會社用の三ヶ所郵便箱 4110型を第一階に設く。

## 二二、鑿泉工事

本工事に使用せるは「ロータリー」式鑿泉機を以つてし、深度 200尺の帯水層に達せしめ、12吋半の軟銅管を「ケーシング」とし打込み、同質管「ストレーナー」を設續沈設す。

鑿井の位置 地階機械室床中央二ヶ所

鑿井の内徑 12吋半

揚水量 一晝夜一萬石（二ヶ所同時）。（以上）。



